

サクラひろば

令和2年12月16日発行
第5号

発行2年目となった「サクラひろば」。東日本大震災から10年目を迎える今年度は、3つの地域学校協働本部の活動紹介と共に、震災の学びについて各号で特集し、紹介しています。

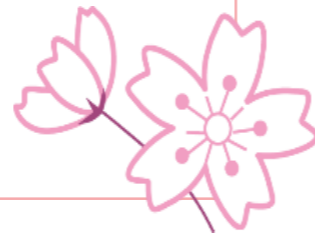
「10年」復興から学ぶ

～地域の魅力をさがして 山口小学校～

山口小学校の学区は海から少し距離があり、津波被害を直接受けたところではありません。しかし、地域の産業への被害は、保護者の方や地域の方の生活に影響をおよぼしました。復興とともに無くなってしまった仕事もあれば、新しく生まれた仕事もあります。地域の産業や文化を知り、自分の将来にいかすため、それぞれの学年が課題を決めて学んでいます。3年生は感染症対策をした上で食品工場の見学をさせていただき、地域の特色ある食品が作り出される工程を学びました。



「いかせんべい工場」で手焼き体験



～宮古小学校～

とうふ作りに初挑戦

栄養たっぷりの大豆。その大豆が様々な姿に変わり、食卓にならんでいることを教科書で学ぶ3年生。今年度初めて、とうふ作りにチャレンジしました。豊間根地域から講師をお招きし、また調理を助けてくれるボランティアの方々のご協力を得て、楽しい実習となりました。

子供達の感想には、「とうふが手間をかけて作られていることを知った」、「余すところなく食べることができることに感心した」などがあり、食材本来の風味を感じながらの貴重な体験の機会となりました。



見守りの大切さ

2学期は多くの体験学習を行うことができました。特に、2年生の町探検、4年生のキャップハンディ体験では保護者の方々から見守りと感染症対策（道具の消毒作業）のご協力をいただきました。

子供達に寄り添いながらもしっかりと学びができるようサポートして下さったり、スムーズな体験の流れをつくって下さったり。多くの皆さんの見守りによって、学習の充実が図られ、子供達の成長があるのだと感じました。

宮古小学校地域学校協働本部
地域コーディネーター 大村 光代



～第一中学校～

未来を学ぶ、地域と学ぶ

【全校キャリア教育/9月9日】

農家や水産業の方、社会福祉士や地域おこし協力隊の方など幅広い職業の12名の方々に、現在の職業についてはもちろんのこと、それまで歩んできた経緯など、それぞれのご経験からたくさんのお話を教えていただきました。進路選択が身近に迫る3年生だけでなく、全校生徒のみんなが、将来を考えるよい機会になりました。



【1学年家庭科「住まいの学習」/7月～9月】

陸中建設株式会社の代表取締役伊藤峻さんに、SDGsについて触れながら「住まいと持続可能な社会」の授業からスタートし、直接講義の他にも、さまざまな資料提供による授業のサポートをして「住まいの学習」を支えていただきました。

コロナ禍において、地域と一緒に学び合う機会の持ち方が難しい情勢ではありますが、学校と地域と一緒に話し合い、考えながら機会を持ち続けていきたいと思っております。ご協力いただいた皆さま、どうもありがとうございました。

第一中学校地域学校協働本部 地域コーディネーター 金野 侑

～山口小学校～

地域ので ふれあい教室

山口小学校では地域の方を講師にお迎えして放課後活動をしています。すでに15年以上続いているこの活動は、子どもたちに人気の体験教室です。今年は安全を確保するため、中止や変更となったものもありましたが、感染対策が可能な活動は実施しました。フラワーアレンジメント、生け花、ちぎり絵体験ではできあがった作品を学校内に飾り、見る人の心を癒やすことができました。お世話になった講師の方々とは学区外でお会いしたときにもご挨拶ができ、地域とのつながりがより強くなっています。



山口小学校地域学校協働本部
地域コーディネーター 佐々木 良恵



第 6 号 2021年3月発行予定

編集：第一中学校地域学校協働本部 (0193-62-4209)
宮古小学校地域学校協働本部 (0193-62-2009)
山口小学校地域学校協働本部 (0193-62-2723)